

# 山口市男女共同参画センター だより

**平成29年1月号**

発行:山口市男女共同参画センター  
 編集:山口市男女共同参画ネットワーク広報委員会  
 〒753-0074 山口市中央二丁目5番1号(山口市民会館事務所2階)  
 TEL/FAX 083-934-2841 <http://www.y-djc.com/> [✉mw3kaku@c-able.ne.jp](mailto:mw3kaku@c-able.ne.jp)

## 【国の動き】 「男女共同参画社会に関する世論調査」結果の概要

内閣府男女共同参画局総務課

内閣府は、平成28年10月、「男女共同参画社会に関する世論調査」の結果を公表しました。ここではその概要をご紹介します。(抜粋)

今年度の世論調査から、対象年齢が20歳以上から「18歳以上」に引き下げられました。ここでは、いくつかの結果について御紹介します。

### (1) 固定的性別役割分担意識は、「賛成」が過去最少に (図表2)

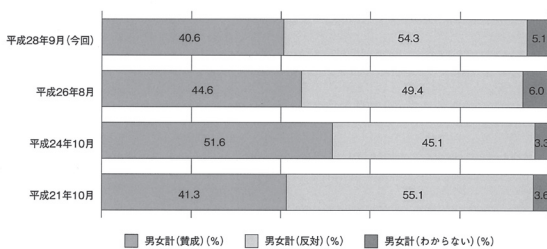
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」との考え方、いわゆる固定的性別役割分担意識を問う質問では、「賛成」は40.6%と、過去最少の割合となりました。

「反対」は54.3%となり、こちらは過去最多とはなりませんでしたが、歴代2番目に高い数値となりました。

これまで長期的には「賛成」が減少傾向、「反対」が増加傾向となる中で、24年調査においては、「賛成」と「反対」が逆転したものの、26年調査では再度反転し、今回も引き続き、「反対」が「賛成」を上回っています。

「賛成」もしくは「反対」と考える理由についてもあわせて聞きましたが(複数回答)、その結果をみると、「賛成」とする理由としては、「妻が家庭を守る方が、子どもの成長などに良い」が60.4%、「両立しながら、妻が働き続けることは大変」が45.6%となっています。また、「反対」とする理由としては、「固定的な役割分担意識を押し付けるべきではない」が52.8%、「妻が働いた方が、個人や社会にとって良い」が46.8%となっています。

図表2 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方



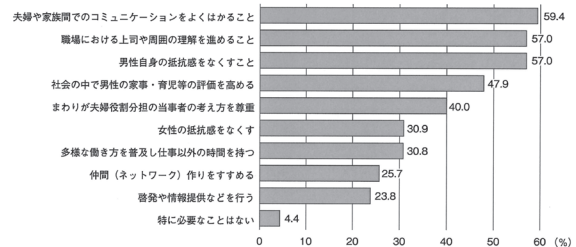
### (2) 男性の家事・育児への参加には

#### 夫婦のコミュニケーションが必要 (図表3)

男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加するためにはどのようなことが必要と思うかを問う質問では(複数回答)、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」(59.4%)との回答が最も多く、次いで「職場における上司や周囲の理解を進めること」(57.0%)、「男性自身の抵抗感をなくすこと」(57.0%)となっています。2番目に多かった「職場における上司や周囲の理解を進めること」は前回(24年調査)では選択肢になかったのですが、今回支持が多いことが確認できました。

最も多かった「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」については、男女共同参画局が先般公表した「夫婦が本音で話せる魔法のシート ○○家作戦会議」の趣旨と合致するものです。このシートの活用が広がることで、夫婦間のコミュニケーションが一層はかられることが期待されます。

図表3 男性が家事・育児に参加するために必要なこと

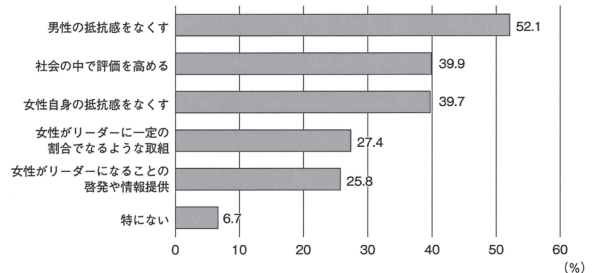


### (3) 女性が地域活動のリーダーになるためには (図表4)

今回調査では初めての設問もありました。その一つ、自治会長やPTA会長など、女性が地域活動のリーダーになるためには、どのようなことが必要だと思うかを問う質問では(複数回答)、「男性の抵抗感をなくすこと」(52.1%)との回答が最も多く、次いで「社会の中で女性がリーダーになることについてその評価を高めること」(39.9%)、「女性自身の抵抗感をなくすこと」(39.7%)等となっています。

「男性の抵抗感をなくすこと」の回答を男女別にみると、男性が54.1%、女性が50.5%という結果でした。

図表4 女性が地域社会のリーダーになるために必要なこと



### ■最後に

今回調査では、これまでに紹介したもののほかに、男女の平等感、ワーク・ライフ・バランス、女性に対する暴力、JKビジネス、旧姓使用などについての意識を問いました。

これら調査結果については、女性の活躍推進及び男女共同参画社会の形成の促進に向けた施策の検討及び実施に係る参考資料として活用していきます。

※内閣府発行「共同参画」12月号より抜粋。



避難所で役立つ  
ペットボトルのおもちゃ



パンの販売コーナー



新聞で作るスリッパ、  
うまくてできるかな



練習の成果を見せませす!



大歳子ども太鼓の元気な演奏

11月23日(水・祝)、山口市男女共同参画センターフェスティバルが開かれました。今年は、ワークショップ、ぜんざいと販売コーナー、登録団体活動発表を参画センターで行い、市民会館展示ホールは団体活動報告パネル展示、小ホールで鈴木おさむ氏講演会が行われました。

## 【ワークショップ「親子で学ぶ防災セミナー」】

子どもと大人が一緒になって、場面ごとに身を守るポーズを覚えたり、段ボールベッドや、新聞紙のスリッパ、皿を作りました。非常食の試食もあり、災害を実際に自分のこととして考えることのできた貴重な時間となりました。参加者からは、「意識を高めることができてよかった」「家でもう一度復習します」「女性ならではの細やかで優しい指導がすばらしかった」との声が聞かれました。



非常食を食べてみました



講師の横山恭子さん(兵庫県防災士会理事)



段ボールベッドはこんなに丈夫!



皆で「うさぎ」のポーズ

## 第八回山口市男女共同参画センターフェスティバル

## 【鈴木おさむ氏講演会「笑う家族に福きたる?」】

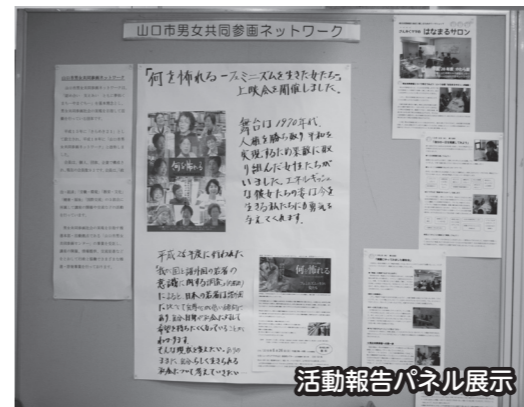
「笑う」ことが人生最大の価値だとする放送作家の鈴木おさむさん。そのきっかけは、ピンチをも「笑い」に変えることで自分が癒されたという実体験でした。やがて同じ価値観をもつ森三中の大島美幸さんと出会い、44才にして息子の笑福くんを授かって、育休ならぬ「父勉(ちちべん)休業」をとるまでの家族をめぐる数々のエピソードが語られました。そして、夫婦それぞれの仕事にかける思いとともに、さまざまな人生の悲しみや苦しみ、その裏にある「笑い」こそが皆を笑顔にしていくのではないかと結ばれ、会場からは大きな拍手が送られました。「涙が出る程おもしろいのに、なぜかしんみりというか、ふわっと温かいような涙も出る時間でした」という参加者の感想そのままの講演でした。



鈴木さんの話に大笑い...そしてほろり



講演会は大盛況



活動報告パネル展示



### ◆今、考えておきたい！ “想い”を伝えるエンディングプラン

誰にでも訪れる人生の最終ステージについて必要な知識を身に付け、自分の想いを前向きにきちんと整理してみましょう。

日時：1月28日（土）13：30～15：30

講師：山口県金融広報アドバイザー 中村久枝氏

### ◆女性活躍支援に関するセミナーの 企画・運営ノウハウを手に入れる！

「女性活躍」を真に実のあるものにするために、女性活躍支援セミナーの企画・運営ノウハウやスキルを学ぶ講座です。実践的なワークショップも交え、専門講師がわかりやすくお教えします。

日時：2月4日（土）13：30～15：30

講師：一般財団法人女性労働協会  
女性就業支援専門員 丹羽 麻子氏

### ◆女性の活躍応援セミナー 「魅力的な話し方・聴き方でママ力UP！」

子育て中のママが笑顔になる生き方応援講座。さまざまな場面で役立つコミュニケーション力について学びます。

日時：2月25日（土）13：30～15：00

講師：(有)ケアンドワイ人材育成部門主任講師  
温品 富美子氏

### ◆おしゃべり読書会

各々のおすすめの本を持ち寄って、本にまつわるおしゃべりを楽しみませんか。どなたでもどうぞ。

日時：3月4日（土）13：30～15：30

上記4講座はいずれも

場 所：山口市男女共同参画センター

参加費：無料

託 児：無料

(3日前までに要予約。6ヶ月以上の未就学児)

※以下の講座は要項に注意

### ◆お国自慢料理教室 ～ベトナム編～

日 時：2月26日（日）10：00～14：00

講 師：未定

会 場：カリエンテ山口

材料費：300円

託 児：なし

申込み：電話、FAX、メールのいずれかで参画センターまでお申し込みください。



申し込み先・問い合わせ先

山口市男女共同参画センター 〒753-0074 山口市中央二丁目5番1号（山口市民会館事務所2階）

TEL/FAX 083-934-2841 <http://www.y-djc.com/> [✉mw3kaku@c-able.ne.jp](mailto:mw3kaku@c-able.ne.jp)

## おんなの目 おとこの目

昨年放映のドラマ「逃げるは恥だが役に立つ」エンディングのダンスもヒットの一因だが、ストーリーの中に男女共同参画的要素がたくさんあったのも共感と呼んだのだろう。

新垣結衣演じる森山みくりは、

非正規の労働環境だったからなのか、働く事に関して、すぐ時給計算ができたりする。頭の回転が速い。対する星野源演じる津崎平匡（これが山口県出身という設定）も数字にはめっぽう強かったりする。

雇用主と従業員と立場を割り切ってしまうばよいところなのだが、そうはいかないところがこのドラマの面白いところだ。

家事を仕事にすれば賃金が発生するのに、ひとたび結婚すると、多くの場合妻が家事を『女性の役割』としてタダで引き受けることになる。そんな性別役割分業の矛盾をユーモラスに突いてみせることで、このドラマは社会に一石を投じたといえよう。

